



創立 70 周年を迎えて

石川県社会教育協会会長 新村 健了

石川県社会教育協会創立 70 周年記念誌『接点』の発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本協会は、戦後まもない昭和 23 年 9 月に、全国に先がけて創立されて以来、これまで一貫して本県における社会教育及び生涯学習の振興・発展に寄与するという目的のもとに活動してまいりました。この間、歴代会長はじめ諸先輩方が社会の発展のために多大なご貢献とご尽力をいただきましたことに対し、深く敬意と感謝を申し上げます。

また、本協会の活動とは別に、地域社会に目を向けた学習に取り組んでいる小松市社会教育協会、地域に根づいた生涯学習を展開する七尾鹿島社会教育協会、地域活動の中核的存在として活動する公民館はじめ多くの社会教育関係団体が、それぞれに豊かな社会づくりに寄与されていることに対しても心から敬意を表する次第であります。そして、日頃より石川県教育委員会並びに県内各市町教育員会の皆様には、本協会の活動につきまして格別のご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、創立から 70 年が経過した今日、日本人の働き方も大きく変わり、核家族化や少子高齢化が進むなど、大きな転換期を迎えており、社会教育においても、人と人とのつながりの希薄化、家庭や地域の教育力の低下など、様々な課題に直面しています。

社会教育の目指すところは、社会の皆さんが心豊かに、助け合って生きる社会の実現にあることに異存はないと思います。教育再生が叫ばれますが、シニア世代の社会参加や地域社会の課題に協働して取り組むことを通して、絆や連帯感を取り戻すなど、そういった社会教育活動の再生、復活こそが鍵だと考えています。今後、本協会としては、創立 70 周年を契機に社会教育及び生涯学習の更なる発展のために、新たな一步を踏み出すことが期待されています。

本協会としては、平成 25 年 3 月の協会活性化検討会の提言を受けて、行政や関係機関と連携しながら、次のことについても取り組んでまいりたいと考えています。

一点目は、去る 3 月に改訂された石川の教育振興基本計画において、「社会全体で家庭や地域の教育力の向上」と「生涯にわたり学び続ける環境づくりの推進」を社会教育及び生涯学習振興の基軸に据えていることを踏まえて、本協会活性化の活路を学校、家庭、地域の連携に見出していくことになると考えています。相互の連携を通して疎遠になりがちな地域社会の絆を取り戻し、失われかけている家庭や地域の教育力を再生させ、社会全体の活性化に繋がると考えるからです。

二点目は、現在、高齢者を含むすべての世代が生涯を通じて学びの意識を持ち続け、その学習成果を活かし積極的に社会参加できる生涯学習社会の実現を図ることが期待されています。本協会を構成する会員の多くは、社会の第一線を退いた人が多く、その豊かな経験と技能を活かした活動を期待する向きもあり、今後、会員のそういった声を結集して、身に付けた優れたキャリア、豊かな資質・能力を活かしたプログラムを作って、豊かな地域社会づくりに貢献できればと願っています。

終わりに、70年という輝かしい歴史と活動歴を誇る本協会としては、将来を見据えて若い人にも参加いただける魅力ある協会づくりに努めるとともに、豊かで生きがいある社会づくりを目指して、社会教育及び生涯学習の振興にこれからも寄与してまいりたいと考えています。どうか会員の皆様並びに社会教育関係団体の皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、このたびの社会教育協会創立70周年記念誌の発刊にあたり、表紙題字『接点』の揮毫を賜りました石川県知事 谷本正憲様はじめ、多大なご協力をいただきました関係各位並びに編集委員の方々に対し、心から感謝申し上げます。